



# 第8回 ROBO-ONE in 飛騨高山

## プレイバック・レポート あずま 梓 みきお (ライター)

2005年9月17日(土)～18日(日)に「第8回 ROBO-ONE in 飛騨高山」が開催された。前号で速報をお伝えしたが、それだけでは伝え切れなかった注目ロボット&バトルをプレイバック・レポート!

### 初の地方開催は 飛騨高山

これまで東京と神奈川で交互に開催されてきた ROBO-ONE 本大会だが、第8回を迎えて、初めてその2都県以外で開催されることとなった。

今回会場となったのは、岐阜県高山市にある「飛騨・世界生活文化センター」。同市では、9月17～19日の3日間、「21世紀夢ウィーク～飛騨高山ロボットワールド～」と題したイベントを開催し、ROBO-ONEはその一環として誘致されたというわけだ。そのため、今回の優勝者には賞金以外に、特産品である100g3000円の飛騨牛が1kgも贈られることになっていた。

ROBO-ONE会場と同じホール内では、AIBOやRobovie-Rなどが展示されていたのだが、その中には江戸時代から伝わる高山市伝統の“からくり屋台”も鎮座していた。「からくり≒ロボット」と考えると、ROBO-ONEが高山市に来たのはやはり縁なのかもしれない。その二者の関係を象徴するような獅子舞ロボット(中身は2体の二足歩行ロボット)のオープニングデモで、大会は開幕した。



### ルールの変更点

既に予告されていた、足裏サイズの規格が今大会から変更された。

縦：脚の長さの60% (旧) → 50% (新)  
幅：脚の長さの40% (旧) → 30% (新)  
※ 対角線などの最大長さは13cmまで。

また、試合規則のほうでは「ダウンからの復帰後、2歩歩くまでは攻撃してはならない」というルールと、「防御姿勢からの復帰が指示されたあと、両者が2歩歩くまでは両者とも攻撃できない」「腰を完全に落としたしゃがみ歩行の禁止」が追加された。これにより、前大会で見られた「相手の起き上がり直後を狙って攻撃し、連続ダウンを奪う」攻撃は封じられたことになる。

そして、今回の規定演技は「とにかく走る」。ちなみに前回大会までで「走ります!」と宣言していたのは、坂本元氏の「HAJIME ROBOT」くらい。こなせるかどうかで予選得点に大きな差が出るポイントだけに、他の参加者がどうやって「とにかく走る」のかが注目だった。

### 上位陣は 安定感が抜群!

それでは、予選のレポートに移ろう。場所は変わっても、予選の方法はそのまま。2分間のデモンストレーションで総勢88機が決勝トーナメントの32枠を争った。

今回の予選では、足裏サイズの規格が小さくなったことを受けて、歩行などのモーションが安定しない機体が多く見られた。そんな中で「とにかく走る」必要があるわけで、参加者のモーション作りの苦勞は相当のものであったろう。

そんな中、やはり上位の機体は安定感が抜群。予選1位を獲得したARIUS(スミイファミリー)は、8の字歩行や片足バランス(ついでに得意の“シェー”)などをソツなくこなし、さらに「とにかく走る」も軽快にアピール。マイクアピールで「足裏が小さくなくてもこんなに安定しています」と言われるまで気づかないくらいの安定したデモンストレーションだった。

「走る」をこなしている参加者のモーションをよく見てみると、最初から全力で「走る」モーションに入らず、最初はゆっくり→だんだん速く、というように芸の細かさを見せている人が多かった。そういったところを意識すれば、さらに安定したデモンストレーションにつながるのだろう。

